

令和6年度 第2回 酒田市公民館運営審議会 次第

日 時：令和7年3月14日（金）午後1時30分～

場 所：酒田市総合文化センター 412号会議室

1 開 会

2 社会教育課長あいさつ

3 審議会委員長あいさつ

4 協 議

(1) 令和6年度 主要事業実績について . . .

資料1

(2) 令和7年度 主要事業計画（案）について . . .

資料2

(3) 令和7年度 事業予算概要（案）について . . .

資料3

(4) その他

5 報 告

(1) 令和6年度社会教育活動等の実施状況について . . .

資料4-1・4-2・4-3

(2) その他

・令和7年度第16回山形県社会教育研究大会について . . .

資料5

6 そ の 他

7 閉 会

令和6年度 酒田市公民館運営審議会 委員名簿

任期：令和5年6月1日～令和7年5月31日

	氏名	推薦団体等	備考
①	小林 伸	酒田市小学校長会	黒森小学校長
②	工藤 陽子	酒田飽海PTA連合会	東部中会長
3	五十嵐 勤	酒田市自治会連合会	青少年育成部長
4	渡部 美恵子	酒田市芸術文化協会	副会長
5	石井 大介	酒田青年会議所	未来のまち推進委員会 運営幹事
6	大滝 美樹	酒田地区私立幼稚園・認定こども園連合会	認定こども園若草幼稚園・若草ベビールーム 理事長・園長
7	加藤 千鶴	識見を有する者	音楽講師
8	佐藤 純子	識見を有する者	生涯学習施設 「里仁館」職員
9	成澤 つるみ	識見を有する者	利用者団体「人形赤い 実の会」代表

※ ○印は新任（任期：令和6年7月1日～令和7年5月31日）

事 務 局

	氏名	所属
1	前田 聡子	酒田市教育委員会社会教育課長兼中央公民館長
2	丸藤 真也	酒田市教育委員会社会教育課長補佐兼中央公民館副館長
3	斎藤 由加	酒田市教育委員会社会教育課社会教育主査兼社会教育係長
4	庄司 奈央	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係主任
5	木崎 実可子	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係主任
6	長南 健太	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係主事
7	工藤 暢晃	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係主事

令和6年度 主要事業 事業実績

資料 1

教育委員会社会教育課

【令和7年2月28日現在】

<生涯学習推進計画の基本目標>

人づくり・・・自ら学び、考え、時代の変化に対応できるたくましい人を育みます。
 地域づくり・・・酒田の良さを愛し、地域社会を協働で創る担い手となる人を育み、持続可能なまちづくりに努めます。

基本施策 I 生涯学習の機会や場の充実 <学ぶ>

I-1 人生100年時代を見据えた学びの推進

(1) 全世代を対象にした事業の充実 (2) 乳幼児期を対象にした事業の充実 (3) 高齢期を対象にした事業の充実

事業名	目的	内容	日時・時間帯・会場等	参加者数・実績等	成果○と課題●→今後の対応
酒田愛ごはん 〜くだもの探検隊〜	庄内地方の特産くだものについて学ぶ。	講義と調理実習、圃場の見学(いちご(2回)、メロン、梨、柿の会は中止)	5月～11月(全5回) ①いちご会(AM) 10:00～11:30 ②いちご会(PM) 13:30～15:00 ③メロン会 9:00～12:00 ④梨の会 10:00～13:00 ⑤柿の会 →中止 会場:文化センター、浜中コ ミセン、現地等	①5/11(土)いちご会(AM) 親子10組24人 ②5/11(土)いちご会(PM) 親子10組26人 ③7/13(土)メロン会 親子8組15人 ④9/14(土)梨の会 成人対象9人 目標数:のべ70人→実績74人	○講義や調理実習、ほ場見学等を通して、受講生が特産くだものについて深く学ぶことができた。今年度はほ場見学と生産者からの説明も取り入れ、テーマを限定したことで、関心の高い受講生が多かった。 ●テーマが限定的なことで食材の準備が危ぶまれたり、受講生の性別や年代に偏りが見られたりした。 →受講者層を考慮した講座を企画する。
市民生涯学習支援 事業	市民各層の人材の情報収集をし、市民自らが講座を企画から運営まで実施することで生涯学習の振興を図る。	今まで学んだことの知識や経験を生かした講座の企画・運営ができる方を生涯学習の指導者として登録。企画・運営する講座を支援する公募型事業。	指導者登録:通年 指導者企画講座:募集6/1 号広報、実施9月～ 会場:文化センター	【企画講座】「はじめてのヨガ」初心者向けのヨガのポーズと呼吸法を学ぶ 10/8～11/26(全5回)成人16人の べ66人参加 新規指導者登録目標数:3人 →実績1人 企画講座実施	○指導者企画講座「はじめてのヨガ」を全5回実施した。健康や軽運動に関心のある受講者が多く、自主サークルとして活動を継続することとなった。 ●講師は応募時点からサークルとして活動したい意向があったが、講座の中で受講者同士が交流する機会が少なく、サークル参加希望者が半数程度だった。 →参加者同士の仲間づくりという点から、講座の企画・運営に当たっては交流的な側面についても配慮するよう働きかけていく。
スマートフォンの 使い方教室	デジタルデバイス解消のため、主に高齢者にむけて、スマホ等に触れる場を提供する。	はじめてのスマートフォン体験	①8/28、③11/12 3:30～15:30 会場:文化センター	①8/28(水)目標数15人 →実績15人 ②9/5(木)目標数15人 →実績11人 ③11/12(火)目標数15人 →実績13人 ④11/19(火)目標数15人 →実績15人	○デジタルデバイドの解消。実際にスマートフォンを使用することで、持っていない方も、体験的に使うことができた。 ●参加者の習熟度により、受け止め方にばらつきがあった。 →個人の問題解決に関しては、各人でキャリア会社の講座や相談窓口を利用するなどの対応を促す。
LINEの使い方教室		スマホの基本とLINE体験 酒田コンボの使い方	②9/5、③11/19 13:30～15:30 会場:文化センター	目標数:のべ50人→実績54人	
幼児すてっぷ 出前講座	保育園、子ども園と連携し、「遊び」を通じた幼児教育を実践。	講師派遣 ①楽しくチアダンス ②よねさんの紙芝居 ③積み木 ④絵本の世界を楽しもう	6月～2月 9:00～11:45、13:45～14: 30の間で1講座30分から2時 間 会場:各園	①楽しくチアダンス 5回 ②よねさんの紙芝居 5回 ③積み木 10回 ④絵本の世界を楽しもう 2回 実施予定数:17園 →実績 22園(22回)	○各コースとも、それぞれ子どもの感性や創造性を育む内容であり、日常の子どもの指導に役立てられた。 ●申込園が増加した為、不採択となった園が3園あった。 →必要な要望に応えられるよう予算を厚くして対応していく。

I-2生涯学習機会の提供

(1)各種講座の提供 (2)学習成果の発表の場の確保

事業名	目的	内容	日時・時間帯・会場等	参加者数・実績等	成果○と課題●→今後の対応
生涯学習まつり 2024	市内で活動している生涯学習サークル・団体などの成果発表を通して、生涯学習サークル・団体・教室の会員等の交流を図るとともに、より一層の市民に身近な生涯学習の振興を目指す。	生涯学習サークル・団体の活動発表	10/19(土)～20(日) 1日目:9:00～16:00 2日目:9:00～14:00 会場:文化センター	参加団体目標数:40団体 →実績42団体 入場者目標数:2,500人 →実績2,342人	○今年度は酒田市からの予算付けもあったことで、昨年は制限を設けていた舞台演出や展示場所も今年は各団体の意向を取り入れられたので、成果を発揮できた団体が多かった。参加団体数は特設ステージ部門を合わせて目標の42団体を達成できた。 ●9～11月は市全体でイベントが多くなる期間のため、たくさんの来場者が見込める期日や開催時間を設定することが課題となっている。 →期日や開催時間については生涯学習まつり実行委員会などで検討していく。また、広報やホームページ、各施設へのチラシ配布など様々な方法で生涯学習まつりの周知を図り、集客を促す。
酒田マリーニジュニア合唱団	音楽と合唱を通して豊かな心を育み、異年齢間の仲間づくりを進める。	定期練習、定期演奏会等への出演	6月～3月 (土曜日、21回) 10:00～11:30 会場:文化センターほか	活動:6月～3月(土曜日)全21回 演奏会:10/5(土)ユネスコ東北大会 2/15(土)ユネスコ童謡を歌う会 3/22(土)第69回定期演奏会等 団員数:14人 新規入団者目標数:5人 →新規入団者実績4人	○4人の新規加入があったものの前年度に比べると団員数が2人減少した。今年度は変則的に前半の10月にユネスコ東北大会があり、合唱を披露する機会が増えたため、メリハリをつけながら楽しく練習をすることができた。また、後半のユネスコ童謡を歌う会や定期演奏会へ向けて意欲的に練習に取り組み、歌声を人に届ける喜びと達成感を味わうことができた。 ●今年度は団員数が14名となったが、毎年度中学生の卒団等がある一方で市の少子化も進んでおり、団員数の維持が課題となっている。 →団員のモチベーションの低下を防ぎながら、団員数の減少を食い止め、新規入団のメンバー募集に努めていきたい。
酒田海洋少年団	少年少女が海に親しみ団体生活の規律を通して社会性を身につけること等を目的とする。	水泳訓練、カヌー訓練、手旗、ロープワーク等	通年(月2～3回、日曜日) 会場:文化センター、訓練場所(新井田川、光ヶ丘プール、消防本部等)	主な活動内容:合同合宿、カヌー訓練、水泳訓練など 活動回数:25回	○今年は東京での全国大会式典への参加や新潟団との合同合宿など、団員にとって充実した交流や訓練を行うことができた。 ●他地域の海洋少年団が団員の減少などで廃団になったりしているため、近隣の海洋少年団との交流が年々困難になってきている。 →合同合宿等積極的に参加するなど、他団との交流を絶やさないようにする。

I-3家庭・学校・地域の連携

(1)家庭教育支援の充実 (2)学校での学びの充実 (3)地域での学びの充実 (4)連携による事業の充実

事業名	目的	内容	日時・時間帯・会場等	参加者数・実績等	成果○と課題●→今後の対応
幼児すてっぷ出前講座【再掲】	-	-	-	-	-
夏休み宿題お手伝い教室	退職公務員(元教職員)連盟酒田飽海支部と東北公益文科大生、中高生ボランティア「かざみどり」と連携を図り、夏休みの宿題学習の支援を行うことにより、子どもの居場所づくり、仲間づくりを行う。	夏休み帳、各種ドリル等で手助けしてほしい教科や内容についてアドバイス。	7月～8月(全4回) 9:30～11:30 会場:文化センター	7月～8月(全4回) →7/31、8/1、8/2(全3回) 参加者 25人 目標数:20人→実績25人	○大部分の児童は宿題がはかどり、楽しく過ごせたということで満足度が100%となった。 ○講師が一人ひとりのつまづきに丁寧に対応したので、子どもたちにわかる楽しさを味わわせることができた。 ●夏休みの始まりが遅くなった学校が何校もあったため、講座の期日・期間を変更しなければならなかった。 →各学校の行事予定を早く知り、夏休みに入ってまもなくの日程で実施できるようにしたい。

地域人材交流講座	小中学校において、地域で専門的な知識や技能を有する地域の人材を生かした学習を展開し、学習活動における学習意欲や実践意欲の高揚を図る。	講師謝礼。小中学校と連携し実施。地域人材による学校支援。クラブ活動、生き方学習、農作業体験、読み聞かせ、地域の文化や歴史・自然を学ぶ学習、スポーツなど	5月～2月 各学校の授業の時間帯(特別活動(クラブ)、生活科、理科、社会、国語、総合学習、その他の活動 等) 会場:各学校	学校からの実施計画:275回(小学校21校、中学校3校) →実績265回(24校×2～15回)※ 需要に応じ調整した 予算上の実施予定数:286回(全28校×10回+予備6回) →265回(24校×2～15回) ※需要に応じ調整した	○小・中学校において、専門的な知識や技能を有する地域の人材を生かした学習を展開し、学習活動における児童生徒の学習意欲や実践意欲の高揚を図ることに寄与することができた。 ●事務効率向上のため、実施要項の細部や関係書式を修正したが、円滑な事業実施のため、さらに検討する必要がある。 →謝金の計画的な活用について働きかけを行い、適正な事業執行に努める。
酒田っ子はぐくみ事業	小中学校と連携。現代社会を生き抜くうえで確かな力、身に付けなければならない基本的な知識の習得、職業観の醸成、コミュニケーション能力の向上を図る。	講師派遣。 ①キャリア教育コース ②音楽でコミュニケーション ③コミュニケーション講座 ④キャリア形成支援 ⑤郷土に学ぶ ⑥学校講師決定方式	6月～1月 9:25～11:25、13:20～15:20の間で1講座45分から90分授業 会場:各学校	内容・回数、実施校数 ①キャリア教育コース 1回、1校 ②音楽でコミュニケーション 5回、5校 ③コミュニケーション講座 2回、2校 ④キャリア形成支援 1回、1校 ⑤郷土に学ぶ 3回、3校 ⑥学校講師決定方式 1回、1校 実施予定数:13回→実績13回 (小学校10校、中学校3校)	○コミュニケーションの取り方や協力することの大切さを学び、人間関係をより良く築くために役立った。また、防災についての意識を高めることや地域の歴史や偉人を学び郷土愛を育むことに役立った。今年度はメニューに学校講師決定方式も加え講師の自由な選択が可能となり、中学校の実施が昨年度の1校のみから3校へと広がった。 ●今年度新たに設定した学校講師決定方式の利用がまだ少ない。 →学校選択制について継続して案内し、幅広いニーズに対応していく。
親子ですくすく出前講座	子ども園・保育園・子育て支援センター等と連携。親子でのふれあい体験や保護者の学ぶ機会の提供を行い、家庭教育の支援の充実を図る。	講師派遣。 ①親子ふれあい体験コース(ネイチャーゲーム、ヨガ、絵本作り、紙芝居、フィットネス、カード作り、リトミック、陶芸)、 ②保護者支援コース(子育て講演会) 【県補助事業「幼児共育ふれあい広場」】	6月～2月 9:00～11:30、13:00～14:00の間で1講座60分から120分 会場:各園等	ネイチャーゲーム 3回 ヨガ 5回 リトミック 6回 陶芸 1回 子育て講演会 6回 実施予定数:35回→実績21回 (保育園・幼稚園、子育て支援センター等19園)	○「親子体験コース」のメニューを新たに2つ増やして8メニューにした。その内の1つ「親子ヨガ」に5つの園・子育て支援センターの申し込みがあり、保護者にも園や子育て支援センターにも好評であった。 ●この講座に申し込む園が毎年ほぼ同じで偏りが見られる。 →活用していない園に積極的に声をかけたり、園のニーズに合わせた新しいメニューを入れたりして申し込みを増やしていきたい。
地域家庭教育講座	小中学校と連携。家庭教育の充実を図るため、PTA・学校・地域が互いに協働し、ライフステージに応じた学習機会の提供や、親子共同の体験型学習の提供を行い、家庭教育力の向上を推進する。	子育てに関する講座や親子共同の体験型学習の実施について、講師、協力団体謝金の一部支援。(生活習慣、健康管理、心の理解と支援等の講話等) 【県補助事業「やまがた子育て講座」】	6月～2月(20回→10回) 13:30～15:10、18:30～20:00の間で40分から90分 会場:各学校	子育て講演会 9回 PTA研修会 1回 実施予定校:11校→実績10校(小学校9校・中学校1校)	○昨年度まで5年間ほど中学校の申し込みがなかったので、中学校のニーズに合わせた講座内容を検討し、講師の紹介を行った。その講師の方に依頼があり、中学校のPTA 研修会として実施された。 ●申し込み、実施する学校が毎年ほぼ同じで偏っている。 →参考として紹介している講師の方を増やしたり、校長会等で講座の長所を説明したりする。
鳥海山・飛島ジオパーク講座	鳥海山・飛島ジオパークが日本ジオパークネットワークの認定を受け、自然・歴史・文化等について学ぶ機会をつくり、郷土を愛する心を育て、鳥海山・飛島ジオパークの活性化に資する。	①飛島ジオツアー(現地学習)成人対象 ②子ども向けジオバスツアー(現地学習)小学3～6年生の親子対象 ③誰かに話したくなるジオ講座(座学+現地学習)成人対象 ④史跡探訪ジオツアー(現地学習)成人対象	①6/1(土)9:00～17:00 ②7/6(土)9:00～16:00 ③9/7、14、21(土)(全3回) ④10/12(土) 会場:文化センター、現地(飛島、大物忌神社、八森遺跡、城輪柵跡等)	①6/1(土)目標15人→実績15人 ②7/6(土)目標10組20人→催行中止 ③全3回講座 目標15人→実績6人 ③-1回目 9/7(土) 実績6人 ③-2回目 9/14(土) 実績5人 ③-3回目 9/21(土) 催行中止 ④10/12(土)目標14人 →実績14人 目標数:のべ91人→実績40人	○市民がジオパークの観点から郷土を学ぶことにより、地域の魅力を再発見するような講座となった。実験や現地学習を取り入れ、参加者が五感を使って学習することができた。今年度は遊佐・八幡エリアにも行くことができ、参加した受講者からも行ったことがない場所に行けて新鮮な体験だったとの声があった。 ●リピーターが多い講座のため、新規の受講者の獲得が課題。荒天時の対応策も必要か。 →昨今、いきいき体験スクールなどで飛島に行く小学校が減少しているため、飛島ジオツアーに小学生向けのプログラムを追加する。

親子で学ぶ論語コミュニケーション♪	親子等で論語の教えを活用した家庭内コミュニケーションの方法を学ぶことにより、子どもたちが道徳心を育む機会とする。	「論語」と「南洲翁遺訓」の概要講義、論語の代表的な章句の素読、章句の意味と家庭内コミュニケーション方法の解説、意見交換等。	9/21(土)13:30～15:00 会場:文化センター	目標数:10組20人→実績2組4人	○南洲翁の観点等から学ぶことにより、ある程度庄内に馴染みのある内容の論語講座となった。 ●内容が難しい講座のため、特に子どもの受講者への配慮が課題。 →講師と内容を検討していく。
夏休み企画 プロジェクションマッピングツアー	・7月の大雨災害に遭った子どものメンタルケア ・保護者の負担を減らす ・今年の夏を少しでも良い思い出にしよう	・プロジェクションマッピング体験 ・カレー、デザート作り ・プラ板アクセサリ作り ・ブンブンゴマ体験、制作	8/19(月)10:00～15:00 会場:文化センター	申込者数 11人 参加者数 9人(2人欠席) 目標数:20人→実績11人	○対象者を大雨災害の被災地域の小学生とした。保護者の中には被災地の対応に現在も従事しており、子どもと夏休みを過ごすことができていないと話す方もおり、感謝の言葉をいただいた。また、子どもたちも大変楽しんで受講し、たくさんの笑顔を見ることができた。 ●松山小、一條小、八幡小、西荒瀬小を対象に参加者を募集したが、八幡小、一條小からは1人ずつの参加となったため、知り合いがおらず寂しそうな顔をしている児童がいた。 →同様の講座を実施する際は、友達を誘って参加してもらおう。
春休み企画 つみきのワークショップ	春休み期間に子どもたちにつみきでダイナミックに遊ぶ機会を提供する。集団での遊びを通して、ほかの参加者と協力し、コミュニケーションを図る力を養う。	約200キロのつみきを使用し、つみきの町を作る。	3/20(木・祝) ①9:30～11:30 ②13:30～15:30 会場:文化センター	参加者目標数 ①年中・年長児と保護者10組 ②小学生20人	※これから実施するもの。
春休み企画 巨大プラレールを楽しもう	・鉄道に興味を持つ子どもを増やし、鉄道利用促進に寄与する ・春休み中の遊びと学びの機会を提供する	・巨大プラレール(ジオラマ)の見学 ・プラレールの運転体験 ・ペーパークラフトの作成	3/22(土)10:00～15:00 3/23(日)10:00～15:00 会場:ミライニ	参加者目標数 ・運転体験、ペーパークラフト →両日合計40人	※これから実施するもの。

基本施策Ⅱ 生涯学習活動の支援体制の充実 <つながる>

Ⅱ-1 広報・情報提供体制の充実

(1) 学習情報発信のあり方 (2) 人材の活用と育成 (3) 相談体制の充実

事業名	目的	内容	日時・時間帯・会場等	参加者数・実績等	成果○と課題● →今後の対応
生涯学習情報の提供	学校を通して市内全小中学生へ情報を提供。媒体を分けて、より多くの方に情報が届くよう情報発信を実施。	カモンくんこどもニュース(隔月)、市ホームページ(随時)、市フェイスブック(随時)、市広報(随時)での情報提供			○カモンくんこどもニュースでは、当課主催事業を中心に多くの情報を提供することができた。 ●カモンくんこどもニュースは児童生徒ひとりひとりに配布しており広報周知には効果的であるが、タイムリーな情報提供や情報量が限られてしまう場合があるため、併せてHPやフェイスブック等の他の媒体も活用して情報発信に努める。 →年5回発行を基本とし、必要に応じて臨機応変に対応する。
市民生涯学習支援事業【再掲】	-	-	-	-	-
ホール機器操作講習会	ホールの機器操作資格者を養成し、総合文化センターホール・シアターOZの利用促進を図る。	自主活動推進のため総合文化センターホール・シアターOZの機材・器具の操作講習会。	・シアターOZ(3日間全1回) 4/22～24 19:00～21:00 会場:OZホール ・文化センター更新(3日間全3回) 2/17～19 新規(3日間全1回)2/3～5 各日19:00～21:00 会場:文化センター	・シアターOZ 4/22(月)～24(水) 受講者14人(更新8人、新規6人) ※3年更新(～R9.4.30まで) ・総合文化センター更新2/17(月)～19(水)6人 新規2/3(月)～5(水)7人 ※2年更新(～R9.3.31まで)	○シアターOZは修了者14人(更新者8人、新規6人) ○総合文化センターは修了者13人(更新者6人、新規7人) ●総合文化センターホールは今年度に起きた事故を受けて一般の機器操作者が操作する際に一定の制限を設けたので、ホール使用の変更点について使用団体に理解してもらえよう努める。 →受講者に向けて機器操作の変更点を周知していく。

II-2 関連施設の利活用

(1) 利用者ニーズの対応

(2) 生涯学習関連施設の利活用

事業名	目的	内容	実施期間等	実績等	成果○と課題●→今後の対応
生涯学習施設管理運営事業	誰もが等しく活用できるように、必要な改修や修繕を行うなど、安全・快適で使いやすい施設運営に努める。	管理運営施設：総合文化センター、清亀園、出羽遊心館、公益研修センター、ひらた生涯学習センター、ひらた農村コミュニティカレッジの施設維持管理と施設運営。	通年	施設の老朽化により修繕に要する費用が多額となっている状況であり、限られた財源の中で安全対策を優先して対応している。また、稼働率が低い施設への利活用の促進を図るように努めている。	○総合文化センターの防火シャッター部品交換修繕やひらた生涯学習センター軒先修繕などの修繕を行い、利用者が安全に使用できるよう努めた。 ○施設利用者の減少している施設について、出羽遊心館では新たな取り組みとして出羽遊心館ステージを実施した。清亀園は予約があるときのみ開館とし、管理運営費の削減に努めた。 ●施設・設備の老朽化による不具合が度々発生している。 →利用者が安全に使用できるよう、引き続き計画的に修繕・更新を実施していく。
生涯学習施設「里仁館」補助金	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する運営費に助成を行う。	生涯学習施設「里仁館」への補助金の交付(5,665千円)	通年		※里仁館運営補助金はR4年度からR8年度まで5年間で4,721千円に削減する。(△472千円/年)

基本施策III 生涯学習の成果の活用 <生かす>

III-1 学校・大学との連携の推進

(1) 各種教育機関との連携

(2) 学生と市民との学習交流活動の推進

III-2 地域活動との連携の推進

(1) 地域の歴史と文化を学ぶ機会の充実

(2) コミュニティ組織の育成・強化

III-3 地域人材の育成

(1) 地域の人材の把握

(2) リーダーや指導者の育成

III-4 公益活動の充実

(1) 公益活動の推進と支援

(2) 地域行事への参加の促進

III-5 持続可能なまちづくり

(1) 学びの循環による魅力のある地域づくり

事業名	目的	内容	日時・時間帯・会場等	参加者数・実績等	成果○と課題●→今後の対応
社会教育 スキルアップ講座	各地域の特色を生かした社会教育事業の推進のため、コミュニティ振興会の職員等の資質向上と地域人材育成を図る。	テーマ「みんなで支える協働の地域づくり」 1 講話 「みんなで支える協働の地域づくり～大沢地区の取り組みから～」 2 質疑応答 3 情報交換	11月27日 13:30～15:30 (全1回) 会場：文化センター	11月27日 13:30～15:30(全1回) 目標数：35人→実績25人	○阿部氏の講話が地域づくりの取り組み方として分かりやすい内容であったので、参加者は自分事として捉えていた。 ●他地区がどんな活動をしているのか知りたいので、情報交換の時間がもっとほしいという感想があった。 →情報交換の時間を増やしたり、県社会教育研究大会に参加してもらったりして、他地区の事業を知る機会や時間を設定する。 →全コミセンの主な活動状況を調べ一覧表にまとめたものを作成し、各地区の実践例を情報共有した。

地域の教育力向上事業	地域全体で「地域の子」「社会の子」として、子どもと地域の人々が交流できる機会を設け、自然に親しみ、社会のルールを身につけ、自分の考えをしっかりと伝える力などを育む。	コミュニティ振興会における地域の特性を生かした青少年の体験活動や健全育成に係わる講座などの実施について支援。	4月～3月	市街地コミセンへ訪問し、各コミセンの活動状況、運営状況、課題等を伺い、各地域での取り組みや課題について実情の把握に努めた。また、全コミセンに取り組んでいる活動の情報提供を依頼し、取りまとめた資料を全コミセンで共有を図った。	○各地区において伝統行事など特色ある事業を通して、子どもと地域の人々との交流や地域の活性化が図られている。 ○社会教育指導員が担当地域を訪問し活動状況の把握、各地域への情報提供と相談等への助言などを行った。 ●対象となる児童生徒の減少や現在の子どもを取り巻く環境の変化から、参加者数の減少に苦慮している地域、事業もある。 ●事務局体制の担い手不足や高齢化により、事業運営が大変になってきている。 →今後も各地区の活動状況を把握し、情報共有・情報交換等を図り、地域との連携を深める。
夏休み宿題お手伝い教室【再掲】	-	-	-	-	-
中高生ボランティア活動支援	ボランティア活動とふれあい交流を通して、思いやりの心を育み、異年齢間の交流を推進する。	中高生ボランティアサークルかざみどりへの支援	活動予定(年間計画)10回 会場:文化センターほか、各ボランティア実施会場(イオン酒田南店・交流ひろば・光ヶ丘陸上競技場等)	主な活動内容:イベントスタッフボランティア、募金活動など 活動回数:17回 新規入会者目標数:5人 →実績13人	○各活動を通し、参加した中高生が社会性を身につけるとともに、学校や学年を超えて交流することができた。 ●学業や部活動等で多忙なため、なかなか参加に結びつかない会員がいる。 →引き続き可能な限り活動日や時間を複数設けるなど、会員が参加しやすいよう配慮していく。
鳥海山・飛島ジオパーク講座【再掲】	-	-	-	-	-
酒田の偉人紹介事業 ＜ふるさと教育関連事業＞	酒田で生まれ、全国的に各方面で活躍し、歴史に足跡を残した人々の肖像画(写真)を市内小中学校に掲示し、児童生徒から興味を持ってもらい将来の夢や希望を育み、郷土愛の醸成に資する。R6年新規紹介対象:岸洋子		通年(市内21小学校、7中学校に掲示)	通年(市内21小学校、7中学校に掲示)→実施済み	○既に紹介済みの3人の偉人に新たに岸洋子を加え、令和6年度当初より学校に掲示。 ●配布したパネルの活用については各学校ごとに活用方法を委ねているため、どのように活用をされているかを把握するのが今後の課題となっている。 →今後も継続して追加し、紹介していく
酒田文化伝承シリーズ ＜ふるさと教育関連事業＞【再掲】	-	-	-	-	-

令和7年度 主要事業（案）

教育委員会社会教育課

【令和7年2月28日時点】

<生涯学習推進計画の基本目標>

人づくり・・・自ら学び、考え、時代の変化に対応できるたくましい人を育みます。

地域づくり・・・酒田の良さを愛し、地域社会を協働で創る担い手となる人を育み、持続可能なまちづくりに努めます。

基本施策Ⅰ 生涯学習の機会や場の充実 <学ぶ>

Ⅰ－1人生100年時代を見据えた学びの推進

(1)全世代を対象にした事業の充実 (2)乳幼児期を対象にした事業の充実 (3)高齢期を対象にした事業の充実

事業名	目的	内容	期日・時間帯等	予定(目標)値等
酒田愛ごはん	伝統的な食材や食文化について学ぶ	①手作り味噌 ②むき蕎麦 ③防災食(庄内麩などの活用検討) ④柿	①6/7 ②7/12 ③9/27 ④11/1	①10組(小学生以下保護者同伴) ②16人(成人) ③10組(対象検討中) ④10組(小学生以下保護者同伴) 参加者目標数:のべ約65人
市民生涯学習支援事業	市民各層の人材の情報収集をし、市民自らが講座を企画から運営まで実施することで生涯学習の振興を図る。	今まで学んだことの知識や経験を生かした講座の企画・運営ができる方を生涯学習の指導者として登録。市民が企画・運営する講座を支援する公募型事業。	未定	支援内容・実施方法等は検討中
スマートフォンの使い方講座	デジタルデバイド解消のため、主に高齢者にむけて、スマホ等に触れる場を提供する。	スマートフォン体験	未定(全1～2回)	参加者目標数:のべ約15人
幼児すてっぷ出前講座	保育園、子ども園と連携し、「遊び」を通した幼児教育を実践。	講師派遣。①楽しくチアダンス、②よねさんの紙芝居、③積み木、④絵本の世界を楽しもう	6月～2月の9:15～11:30、13:45～14:30の間で1講座30分から2時間	実施予定:25園

Ⅰ－2生涯学習機会の提供

(1)各種講座の提供 (2)学習成果の発表の場の確保

事業名	目的	内容	期日・時間帯等	予定(目標)値等
生涯学習まつり2025	市内で活動している生涯学習サークル・団体などの成果発表を通して、生涯学習サークル・団体・教室の会員等の交流を図るとともに、より一層の市民に身近な生涯学習の振興を目指す。	生涯学習サークル・団体の活動発表	10/18(土)～19(日)(2日間) 1日目:9:00～16:00 2日目:9:00～15:00	参加団体目標数:45団体 入場者目標数:2500人
酒田マリーングジュニア合唱団	音楽と合唱を通して豊かな心を育み、異年齢間の仲間づくりを進める。	定期練習、定期演奏会等への出演	6月～3月 (土曜日、21回) 10:00～11:30	新規入団者目標数:4人
酒田海洋少年団	少年少女が海に親しみ団体生活の規律を通して社会性を身につけること等を目的とする。	水泳訓練、カヌー訓練、手旗、ロープワーク等	活動予定 通年(月2～3回、日曜日)	

I-3家庭・学校・地域の連携

(1)家庭教育支援の充実 (2)学校での学びの充実 (3)地域での学びの充実 (4)連携による事業の充実

事業名	目的	内容	期日・時間帯等	予定(目標)値等
幼児すてっぷ出前講座 【再掲】	—	—	—	—
夏休み宿題お手伝い教室	退職公務員(元教職員)連盟酒田飽海支部と公益大生、中高生ボランティア「かざみどり」とが、夏休みの宿題学習の支援を行い、子どもの居場所づくり、仲間づくりを行う。	夏休み帳、各種ドリル等で手助けしてほしい教科や内容についてアドバイス。	8月(全4回) 9:30~11:30	8/4日(月)、5日(火)、7日(木)、8日(金)の4日間 参加者目標数:20人
地域人材交流講座	小中学校において、地域で専門的な知識や技能を有する地域の人材を生かした学習を展開し、学習活動における学習意欲や実践意欲の高揚を図る。	小中学校と連携し実施。地域人材による学校支援。クラブ活動、生き方学習、農作業体験、読み聞かせ、地域の文化や歴史・自然を学ぶ学習、スポーツなど	5月~2月 各学校の授業の時間帯(特別活動(クラブ)、生活科、理科、社会、国語、総合学習、その他の活動等)	実施予定:290回(全28校×10回) ※需要に応じ調整
酒田っ子はぐくみ事業	小中学校と連携。現代社会を生き抜くうえで確かな力、身に付けなければならない基本的な知識の習得、職業観の醸成、コミュニケーション能力の向上を図る。	講師派遣。①キャリア教育コース、②音楽でコミュニケーション、③コミュニケーション講座、④キャリア形成支援、⑤郷土に学ぶ⑥方言でコミュニケーション(仮)	6月~2月の9:25~11:25、13:20~15:20の間で1講座45分から90分授業	実施予定:18回
親子ですくすく出前講座	子ども園・保育園・子育て支援センター等と連携。親子でのふれあい体験や保護者の学ぶ機会の提供を行い、家庭教育の支援の充実を図る。	講師派遣。①親子ふれあい体験コース(ネイチャーゲーム、ヨガ、絵本作り、紙芝居、フィットネス、カード作り、リミック、陶芸、ボール)、②保護者支援コース(子育て講演会) 【県補助事業「幼児共育ふれあい広場」】	6月~2月 1講座60分から120分	実施予定:24回
地域家庭教育講座	小中学校と連携。家庭教育の充実を図るため、PTA・学校・地域が互いに協働し、ライフステージに応じた学習機会の提供や、親子共同の体験型学習の提供を行い、家庭の教育力の向上を推進する。	子育てに関する講座や親子共同の体験型学習の実施について、講師、協力団体謝金の一部支援。(生活習慣、健康管理、心の理解と支援等の講話等) 【県補助事業「やまがた子育て講座」】	6月~2月 1講座30分から90分	実施予定校:10校
鳥海山・飛島ジオパーク講座	鳥海山・飛島ジオパークが日本ジオパークネットワークの認定を受け、自然・歴史・文化等について学ぶ機会をつくり、郷土を愛する心を育て、鳥海山・飛島ジオパークの活性化に資する。	①飛島ジオツアー(現地学習)成人対象 ②飛島ジオツアー(現地学習)小学生の親子対象 ③誰かに話したくなるジオ講座(座学+現地学習)成人対象 ④史跡探訪ジオツアー(現地学習)成人対象	①5/24(土)9:00~17:00 ②7/12(土)9:00~17:00 ③9/20,27(土)(全2回) ④10/25(土)	①参加者目標数14人程度 ②参加者目標数10組20人程度 ③参加者目標数10人程度 ④参加者目標数16人程度 参加者目標数:のべ70人

基本施策Ⅱ 生涯学習活動の支援体制の充実 <つながる>

Ⅱ-1 広報・情報提供体制の充実

(1) 学習情報発信のあり方 (2) 人材の活用と育成 (3) 相談体制の充実

事業名	目的	内容	期日・時間帯等	予定(目標)値等
生涯学習情報の提供	学校を通して市内全小中学生へ情報を提供。媒体を分けて、より多くの方に情報が届くよう情報発信を実施。	カモンくんこどもニュース(隔月)、市ホームページ(随時)、市フェイスブック(随時)、市広報(随時)での情報提供		
市民生涯学習支援事業【再掲】	—	—	—	—
ホール機器操作講習会	ホールの機器操作資格者を養成し、総合文化センターホール・シアターOZの利用促進を図る。	自主活動推進のため総合文化センターホール・シアターOZの機材・器具の操作講習会。	・シアターOZ(3日間全1回) 4月下旬予定 19:00~21:00 ・文化センター(3日間全2回)時期は検討中	

Ⅱ-2 関連施設の利活用

(1) 利用者ニーズの対応

(2) 生涯学習関連施設の利活用

事業名	目的	内容	実施期間等	実施予定等
生涯学習施設管理運営事業	誰もが等しく活用できるように、必要な改修や修繕を行うなど、安全・快適で使いやすい施設運営に努める。	管理運営施設:総合文化センター、清亀園、出羽遊心館、公益研修センター、ひらた生涯学習センター、ひらた農村コミュニティカレッジの施設維持管理と施設運営。	通年	
生涯学習施設「里仁館」補助金)	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する運営費に助成を行う。	生涯学習施設「里仁館」への補助金への交付(5,193千円)	通年	①里仁講座 12講座 ②教養講座 6講座 ③現地学習 1講座 ④親子講座 3講座

基本施策Ⅲ 生涯学習の成果の活用 <生かす>

Ⅲ-1 学校・大学との連携の推進

- (1) 各種教育機関との連携
- (2) 学生と市民との学習交流活動の推進

Ⅲ-2 地域活動との連携の推進

- (1) 地域の歴史と文化を学ぶ機会の充実
- (2) コミュニティ組織の育成・強化

Ⅲ-3 地域人材の育成

- (1) 地域の人材の把握
- (2) リーダーや指導者の育成

Ⅲ-4 公益活動の充実

- (1) 公益活動の推進と支援
- (2) 地域行事への参加の促進

Ⅲ-5 持続可能なまちづくり

- (1) 学びの循環による魅力のある地域づくり

事業名	目的	内容	期日・時間帯等	予定(目標)値等
社会教育スキルアップ講座	各地域の特色を生かした社会教育事業の推進のため、コミュニティ振興会の職員等の資質向上と地域人材育成を図る。	山形県社会教育研究大会へ参加し、県内各地域の特色ある活動事例を研修し、課題解決や地域活動に活かす。	10月17日(金)川西町(全1回)	参加者目標数:約40名 (コミュニティ振興会職員ほか)
地域の教育力向上事業	地域全体で「地域の子」「社会の子」として、子どもと地域の人々と交流できる機会を設け、自然に親しみ、社会のルールを身につけ、自分の考えをしっかりと伝える力などを育む。	コミュニティ振興会における地域の特性を生かした青少年の体験活動や健全育成に係わる講座などの実施について支援。	4月～3月	
夏休み宿題お手伝い教室【再掲】	-	-	-	-
中高生ボランティア活動支援	ボランティア活動とふれあい交流を通して、思いやりの心を育み、異年齢間の交流を推進する。	中高生ボランティアサークルかざみどりへの支援。	活動予定(年間計画)10回	新規入会者目標数:10人
鳥海山・飛島ジオパーク講座【再掲】	-	-	-	-
酒田の偉人紹介事業 <ふるさと教育関連事業>	酒田で生まれ、全国的に各方面で活躍し、歴史に足跡を残した人々の肖像画(写真)を市内小中学校に掲示し、児童生徒から興味を持ってもらい将来の夢や希望を育み、郷土愛の醸成に資する。R3紹介偉人(土門拳、吉野弘、茂木善作)R6紹介偉人(岸洋子)R7新規紹介対象偉人(中村恒也)		通年(市内21小学校、7中学校に掲示)	

<新規事業>

事業名	目的	内容	期日・時間帯等	予定(目標)値等
酒田っ子根の力育成プロジェクト事業	酒田っ子につけたい力を「まなびの樹」にたとえ、よりよい社会や幸福な人生に向けて、学びを活かしていく「根の力」を育てる事業を展開する。	①吉野弘氏の詩に触れる朗読会を開催する ②異年齢で交流する場を提供するため、自然体験活動(チャレンジ冒険団)を実施する ③ものづくりの楽しさを知り、意欲を高めるために中村ものづくり事業との連携を図る	未定	内容の詳細・実施方法等は検討中

令和7年度 事業予算概要（案）

1 生涯学習振興総務管理事業	6,689,000 円
社会教育委員報酬・公民館運営審議会委員報酬	218,000 円
借上料	216,000 円
・社会教育研究大会参加用バス借上料	216,000 円
山形県社会教育連絡協議会等への負担金	41,000 円
生涯学習振興支援補助金	428,000 円
・子ども会育成連合会	84,000 円
・酒田海洋少年団	134,000 円
・青少年を伸ばそう市民会議	126,000 円
・白鳥を愛する会	84,000 円
生涯学習施設「里仁館」への補助金	5,193,000 円
その他 旅費、一般需用費、通信運搬費（郵券料等）など	593,000 円
2 生涯学習施設管理運営事業	148,857,000 円
修繕料	6,017,000 円
燃料費および光熱水費	20,697,000 円
施設管理委託料	117,321,000 円
・文化センター施設維持管理業務委託料	43,780,000 円
・公益研修センター（指定管理委託料）	33,420,000 円
・ひらた生涯学習センター施設管理委託料	6,086,000 円
・出羽遊心館庭園維持管理業務委託料	6,960,000 円 ほか
備品購入費	153,000 円
・文化センター備品（調理実習用炊飯器）	43,000 円
・出羽遊心館備品（冷蔵庫）	104,000 円
・公印備品（中央公民館窓口出納印）	6,000 円
その他 一般需用費、通信運搬費（電話料等）など	4,669,000 円
【繰越明許費】	
・工事請負費（総合文化センター屋上改修工事費）	13,985,000 円
3 二十歳を祝う成人の集い開催事業	1,129,000 円
報償金	680,000 円
・集合記念写真報償費（写真データ）	630,000 円
・アトラクション出演依頼謝金	50,000 円
食糧費	10,000 円
一般需用費	250,000 円
・恩師からのメッセージ冊子印刷ほか	
役務費	189,000 円
・駐車場整理作業員、看板設置等	

4 生涯学習推進講座開催事業 2,486,000 円

各種講座 講師謝金・旅費など		1,835,000 円
・ 幼児すてっぷ出前講座	250,000 円	
・ 親子ですくすく出前講座	192,000 円	※県補助事業
・ 地域家庭教育講座	100,000 円	※県補助事業
・ 地域人材交流講座	560,000 円	
・ 酒田愛ごはん	32,000 円	
・ 鳥海山・飛鳥ジオパーク講座	120,000 円	ほか
その他 一般需用費、保険料・手数料など		651,000 円

5 ミライニ管理運営事業 310,088,000 円

ミライニ運営評価審議会委員報酬		137,000 円
修繕料		1,707,000 円
・ 駐車場棟精算機消耗品交換修繕	615,000 円	
・ ミライニ修繕 ほか	1,092,000 円	
光熱水費		21,044,000 円
施設管理委託料		248,235,000 円
・ 指定管理委託料	247,152,000 円	
・ 駅東駐車場施設開錠業務委託料	1,083,000 円	
システム関連業務委託料		990,000 円
借上料		19,250,000 円
・ 図書館情報システム賃貸借料	19,019,000 円	
・ 除雪機借上料ほか	231,000 円	
備品購入費		520,000 円
・ ミライニ備品（研修室遮光カーテン）	520,000 円	
負担金		17,761,000 円
・ 管理組合負担金	17,700,000 円	
・ 山形県図書館協会等への負担金	61,000 円	
その他 報償金、一般需用費、手数料など		444,000 円

6 酒田っ子根の力育成プロジェクト事業 134,000 円

講師謝金等		90,000 円
・ 朗読会指導者謝礼、講師謝金等	70,000 円	
・ チャレンジ冒険団講師謝金	20,000 円	
役務費		44,000 円
・ 朗読会 照明・音響操作手数料	44,000 円	

令和6年度社会教育活動等一覧

資料4-1

No.	団体名	通年・長期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	松原						・遊びの学校		・まつばら文化祭	・親子スポーツフェスティバル ・世代交流グラウンドゴルフ大会 ・絆作文コンクール		・カラーリング大会		
2	宮野浦					・夏休み学習室開放		・子ども教室（数学）	・みやのうらコミセンまつり ・宮野浦海岸清掃（宮子連）	・文化祭 ・子ども教室（数学）	・子ども教室（数学）		・子ども教室（数学）	
3	若浜			・地域食堂	・若浜学童と花植え		・地域食堂（2回）	・若浜小2年来館	・若浜学区コミセンまつり	・ミュージックセラピー（3年生） ・昔遊び（1年生）	・若浜小子ども安全サポーター感謝の会			・子どもの居場所づくり事業
4	富士見					・地域計画第4回「富士見みらい会議」ワークショップ	・富士見つ子夏休み宿題お手伝い教室	・宇宙探検with富士見つ子		・文化祭		・花と音楽の街づくり推進協議会		
5	浜田				・クラブ活動支援（絵画、抹茶、スナック、ゴルフ、フアカーリン、光丘彫り）	・クラブ活動支援			・遊びの楽校（浜子連） ・クラブ活動支援（文化祭）					
6	泉	・絵本の読み聞かせ（8月除く毎月）	・大きな紙に絵を描こう	・端午の節句	・親子ふれあいあそび	・流し宝もの…何が流れてくるかな？	・「コボッルの夏まつり」～世代間交流	・100号のキャンパスに向かって…	・親子で体を動かしてあそぼう	・秋を楽しむ ・つくって食べて学ぼう「食育」	・いずみの森のクリスマス	・つくってあそぼう「正月あそび」	・マジックショー	・ひなまつり ・おめでとう1年生
7	松陵	・学びと遊びの楽校「松ぼっくりクラブ」「松げつ教室」（通年）		・酒田まつり松陵傘福山車行列参加		・夏の寺子屋教室（7月下旬～8月上旬）				・遊びの楽校	・冬の寺子屋教室	・親子の食育料理教室		・春の寺子屋教室
8	港南					・おもしろ広場（亀ヶ崎合同）				・港南コミセン祭り（子供の遊び広場）				
9	琢成			・酒田まつり琢成山車行列	・園芸教室		・琢成学区ラジオ体操の日 ・琢成学区ふるさと講座		・琢成学区文化祭					・救急救命講習会 ・山車修理・組立練習
10	亀ヶ崎	・亀小クラブ活動支援（5～12月）				・おもしろ広場（港南合同）			・コミセン祭り					

令和6年度社会教育活動等一覧

No.	団体名	通年・長期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
11	西荒瀬			・花いっぱいフンドリー ・育てよう・わくわく夢の森		・理科授業（4年生「夏の星座」6年生「月の満ち欠け」） ・星空ワッチング（中止）			・ふるさと産品調理教室（ごはんだーいすき庄内米）	・干し柿作り	・鮭料理教室			
12	新堀			・田植えチャレンジ ・サクラマスの放流	・すもう大会	・七夕祭り			・稲刈りチャレンジ ・最上川自然探検隊	・脱穀チャレンジ ・凧作り ・凧あげ ・茶道体験			・俵編みチャレンジ	
13	広野	・紅花を育てる（4月～10月）	・ふれあい体験	・地域めぐり（内・外回り） ・三耕園花植え	・出羽人形学びと体験 ・凧つくり体験									
14	浜中	・ジュニアパドミントン教室（5～12月） ・浜っ子るんるんひろば（5～2月）	・農作業体験						・綱引教室		・冬期パドミントン教室			
15	黒森				・BBQ		・孫親学級			・あったか！年越し大作戦		・少年ふれ太鼓 ・黒森少年歌舞伎少年太鼓		
16	十坂	・十坂元気塾（通年） ・野菜作り（4～11月）	・十坂元気塾「ストレッチ」 ・野菜作り	・十坂元気塾「狭心症と心筋梗塞」	・十坂元気塾「災害に備える」	・十坂元気塾「子ども園交流」 ・スポーツ交流（小学校） ・学童夏休み昼食会	・十坂元気塾「消費トラブルに巻き込まれないように」 ・夏休み食育教室②	・十坂元気塾「小学校6学年交流」	・十坂元気塾「誤嚥性肺炎の予防」 ・んめもん食堂	・十坂元気塾「認知症予防」 小学校漬物教室	・十坂元気塾「輪投げ大会」 ・昔の遊び教室 ・んめもん食堂 ・市議会傍聴会	・十坂元気塾「庄内ヤマト販売」 ・新春麻雀、将棋大会 ・新春放談会	・十坂元気塾「筋膜リリース」 ・んめもん食堂	・十坂元気塾「ストレッチ」
17	東平田			・田植え体験		・夏まつり参加体験	・郷土史体験 ・地区夏まつり	・新井田川を調べよう水源調査 ・稲刈り体験			・収穫を感謝する会		・軽スポーツ体験	
18	中平田				・世代交流グラウンドゴルフ	・体験学習		・子供神楽(敬老会)	・子供神楽(ふるさとまつり)		・竹とんぼ作り ・ピザ作り			
19	北平田	・子ども放課後広場（通年）	・ひょうたん作り ・子ども放課後広場			・おやつ作り教室	・おばけカボチャコンテスト	・工作教室		・読み聞かせ会				・茶道教室
20	上田		・球根の植栽		・花苗の植栽		・サマースクール		・もの作り教室 ・交通安全教室	・案山子まつり	・べっち大会 ・クリスマス会		・3世代交流会 ・冬季スポーツ大会	・卒園茶会 ・地区一斉クイズ作戦
21	本楯		・鳥海小クラブ「村の名人」	・ちびっこ田 田植え	・サクラマス放流 ・サイクリング(交通安全教室) ・春の花いっぱい運動 ・マイタケ育成事業		・夏休み学習会（3日間午前中）	・ちびっこ田 稲刈り	・ちびっこ田 脱穀	・秋の花いっぱい運動（チューリップ植栽）	・ハム、ソーセージ手作り教室（2回）			
22	南遊佐		・ふるさと花と緑の集会			・マイ夢七夕フェスタ ・まなびの里教室（ジオパーク）	・学びの里教室（英会話教室、フダナ教室、刺し子教室、木工教室）		・ふれあいグラウンドゴルフ ・南遊佐の歴史めぐり	・ふれあい公式ワナゲ大会	・チャレンジそば打ち体験 ・すくすくみんなで交流会			・卒業お茶会

令和6年度社会教育活動等一覧

No.	団体名	通年・長期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
24	観音寺	・地域にぎわい活性化の創出(通年) ・観音寺市(通年) ・キッチン-出店(4~12月)	・鳥海八幡中総合学習 ・スポーツレクレーション 八幡体育館50年間ありがとうイベント ・スイーツ作りを通し地域の人々を楽しませて笑顔にする	・まちサロン ・777-ロード 植栽	・絵灯籠作りと展示 ・まちサロン	・絵灯籠作りと展示 ・まちサロン ・防災研修会 ・好きな生地を選んで作るおしゃれな布バック			・4地区合同事業 がんばろう八幡 新米おにぎりといも煮で元気に!	・まちサロン ・ボタニカルキャンドル作り	・まちサロン ・齋藤哲子写真展 ・門松作り教室 ・鳥海八幡中総合学習 ・スイーツ作りを通し地域の人々を楽しませて笑顔にする		・まちサロン ・和菓子作り教室 ・「観音寺まちづくり計画」準備 ・訪問型サービスB ・公園管理とバスケットボードの設置 ・お雛様展示	・まちサロン
25	一條				・地区運動会(中学生ボランティアスタッフ)	・夏祭り(小学生S-JINK、中学生ボランティアスタッフ)	・藍染教室&中学生総合的学習A(中止)		・4地区合同事業 ・藍染体験&モルック体験 ・文化祭の作品作り(中止)	・文化祭&中学生総合的学習B(中止)	・習字教室&中学生総合的学習C		・ふれあい給食メッセージカード	
26	大沢	・清流太鼓活動(5~12月上旬)		・清流太鼓活動 ・山菜採り体験	・畑の学校(花植え) ・じゅんさい採り	・百歳体操、小学生交流会	・夏休み中 kids楽校(中止)	・百歳体操、小学生交流会	・4地区合同事業 ・百歳体操、小学生交流会	・百歳体操、小学生交流会	・地域交流会 ・百歳体操、小学生交流会	・雪遊び(沖縄東村と交流会)		・春休み kids楽校
27	日向	・通所型、訪問型サービスB(通年)		・納豆汁プロジェクト ・からどり部(耕起) ・畑の楽校(さつまいも)	・からどり部(植え付け)	・移動するコミュニティ ・にっこりランド*夏祭り	・畑の楽校(升田かぶ播種)	・日向ぼっこスクール(宿題やるDAY) ・畑の楽校(さつまいも収穫)	・移動するコミュニティ ・4地区合同事業	・移動するコミュニティ ・大好き八幡in日向	・ひとり暮らし高齢者へクリスマスカード年賀状 ・畑の楽校(かぶ収穫)	・みそづくり ・納豆汁プロジェクト		
28	南部										・高齢者世帯にクリスマスを	・異世代交流スキーツアー	・雪と遊ぼう	
29	山寺	・コミセン開放(通年)		・庄内米を育てよう	・ホテルの里ウォッチング(蛍ウィーク) ・里山巡り(2年生) ※カワニナ放流		・ラジオ体操 ・夏休みの宿題をやる ・山寺夏まつりボランティア活動		・庄内米を育てよう		・高齢者慰問 ・ロールケーキ作り ・年越しそば道場	・塞道幕展 ・新春お茶会		・歓送迎会(たこやきパーティー)
30	松嶺			・野菜作り(畑作り)	・野菜作り(種植、苗植)	・チャレンジ体操(夏休み)			・野菜作り(収穫祭)		・巨大ツリー作り			
31	内郷						・木工・陶芸教室 ・松山地域青少年活動 ・内郷地区サマースクール(中止)				・親子料理教室			

令和6年度社会教育活動等一覧

No.	団体名	通年・長期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
32	田沢						<ul style="list-style-type: none"> ・絵はがき作り ・ツノガマを通して田沢の自然を知ろう ・高齢者疑似体験 ・ぜったいもっしえ時間（東陽・郡鏡・山谷合同） ・子供会バス旅行 		<ul style="list-style-type: none"> ・子供会バス研修 		<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスパーティー 	<ul style="list-style-type: none"> ・書道教室 		
33	東陽			<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流 ・さつま芋苗植え 	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農体験（餌やり、乳しぼりバター作り） 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族で防災を考える ・流しそうめん 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜったいもっしえ時間（田沢・群鏡・山谷合同） 		<ul style="list-style-type: none"> 芋掘り・焼き芋 干し柿作り 		<ul style="list-style-type: none"> そば打ち教室 書道教室 			
34	郡鏡・山谷					<ul style="list-style-type: none"> ・コミセン学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜったいもっしえ時間（東陽・田沢合同） 		<ul style="list-style-type: none"> ・ハーブ石鹸作り 		<ul style="list-style-type: none"> ・コミセン学校 ・餅つき体験会 ・クリスマス会（ケーキ作り） 			
35	南平田					<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能伝承（飛鳥神楽・飛鳥祭奴振り） 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能伝承（檜橋神代神楽） 				<ul style="list-style-type: none"> ・そば打ち体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・さしこ教室 		
36	砂越・砂越緑町				<ul style="list-style-type: none"> ・ギョーザづくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みコミセン塾 ・夏祭り 			<ul style="list-style-type: none"> ・せっけん作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・えとマスコット作り ・自治会館清掃、独居高齢者へプレゼント訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・木工クラフト工作 ・塞道祭 		

令和7年度 第16回山形県社会教育研究大会について(予定)

1. 目的 :

県内各地から広く社会教育関係者が集い、日頃の社会教育活動の情報や研究成果を学び合うことにより、生涯学習社会に向けた社会教育のあり方を探るとともに、社会教育推進の重要な拠点である公民館等の活動の充実を図り、県内の社会教育の一層の振興・発展を目指すもの。

2. 主催 : 山形県社会教育連絡協議会(事務局:開催地区所管の教育事務所)

3. 共催 : 山形県教育委員会、各市町教育委員会(開催地区)

4. 後援 : 各市町等(開催地区)

5. 期日 : 令和7年10月17日(金)(予定)

6. 会場 : 川西町フレンドリープラザ・川西町役場・JAおきたま 等(予定)

7. 対象 : 社会教育委員、公民館運営審議会委員、教育委員、
公民館等社会教育施設職員、社会教育関係団体・NPO法人関係者、
学校教育関係者、教育行政関係者、福祉行政関係者、
生涯学習関係実践者

8. 日程 : 未定(半日の予定) ※令和6年度は1日(10:00~15:30)

9. 内容 : 検討中 ※令和6年度は「講演」および「分科会」

令和6年度

第15回山形県社会教育研究大会

(兼) 第11回村山地区社会教育推進協議会研修会

研究主題 「未来をひらき、地域をつくる社会教育の在り方」
つなぐ ～いのち・学び・地域～

大会記録誌



とき 令和6年10月18日(金)

ところ 河北町サハトベに花

河北町職業訓練センター

I 開会行事【10:00~10:40】

1 開会の言葉 大会副会長（実行委員長）大沼恵美子

2 表彰

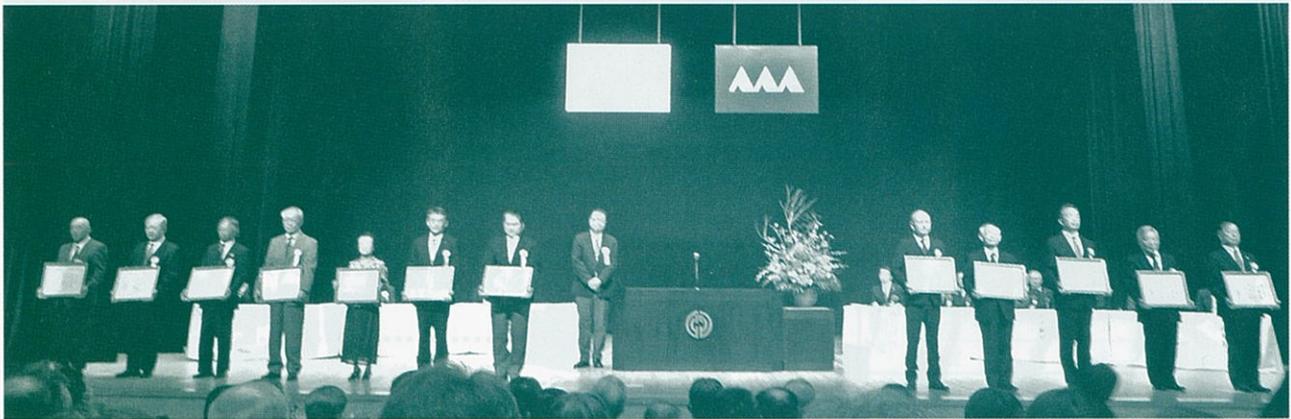
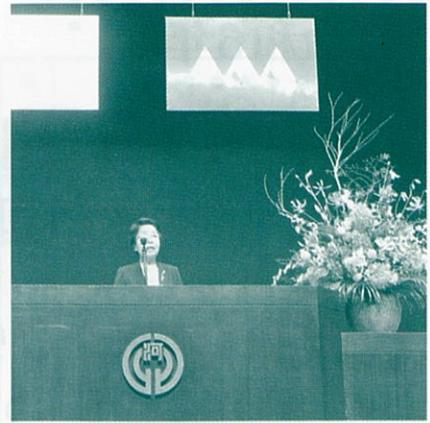
☆令和6年度 山形県社会教育連絡協議会表彰

<優良公民館等表彰>

- 堺田公民館（最上町）
- 南原コミュニティセンター（米沢市）
- 飯豊町西部地区公民館（飯豊町）

<社会教育関係職員・社会教育委員表彰>

- 千葉 榮一 氏（山形市江南公民館長）
- 田宮 久子 氏（元河北町社会教育委員）
- 加藤 恭子 氏（尾花沢市社会教育委員）
- 芳賀 清 氏（大石田町社会教育委員）
- 三部 義道 氏（最上町社会教育委員・公民館運営審議会委員）
- 加藤 憲彦 氏（舟形町社会教育委員・公民館運営審議会委員）
- 宇山 栄一 氏（米沢市社会教育委員・公民館運営審議会委員）
- 安達 英一 氏（前長井市社会教育委員）
- 五十嵐正谷 氏（前鶴岡市社会教育委員）
- 青山 幹夫 氏（遊佐町社会教育委員）



3 主催者挨拶

大会会長
安藤 耕己

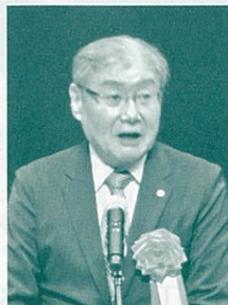


4 来賓祝辞

山形県教育委員会教育長
(代理) 教育次長
加藤 淳一 様



河北町長
森谷 俊雄 様



5 次年度開催地区 代表挨拶

(置賜地区) 大会副会長
宇山 栄一



6 閉会の言葉

大会副実行委員長
秋場 弘昭



ご来賓の皆様

II 谷地大黒舞 (河北民謡連合会) 【10:40~11:10】



「河北町民歌」を皮切りに、地域に伝わる伝統芸能「谷地大黒舞」のあでやかで力強い演技を、河北民謡連合会の皆様からご披露いただきました。

III 記念講演 【11:20~12:20】

◆難病を克服して元気を発信！～おもしろい山形 オラだど一緒に盛り上げていぐべ！～

講師：ミッチーチェン氏



□ 昼食 【12:20~13:30】



天童市在住で、TV番組や各種メディアで大活躍のミッチーチェン氏をお招きし、郷土愛に満ちたお話をたっぷりとお聞きました。

若くして全身の痛みに襲われる原因不明の病気を患いご苦労なされた経験や、難病の診断を受け、逆に前向きに治療に取り組み驚異的な回復をみせたこと、そして、心も体も前向きになれた自信によって、小さい頃からの夢であった芸人＝「伝説の余興師」となったことなどを、笑いを交えながら、お話しくださいました。

今回は、会場である「河北町」の魅力を伝えるためのアイデアを具体例として、地域から元気を発信していくための、たくさんのヒントをご教示いただくことができました。

IV 各分科会 【13:30~15:30】 ※分科会ごとに閉会

【第1分科会】 於：河北町職業訓練センター 視聴覚室

テーマ：現代的課題等への対応



1 話題提供

- (1) 学校教育の一環として子ども達への地域活動の啓発と
少子高齢化の地域活性化の取組み

遊佐町西遊佐地区まちづくりの会 会長 伊藤 新一 氏
同 地域生き活き部会長 工藤久美子 氏

- (2) あらとのヒカリ☆地域活性化スポットの創出

白鷹町荒砥地区コミュニティセンター事務局長 新野 安子 氏

2 協議

視点：現代的な課題や地域課題の解決に向けてどう取り組むか。

- 前後左右の席の人と発表についての感想を交流した後、全体討議。「若い世代をいかに巻きこむか」についての話題提起があり、同じ悩みを抱えている方や現在行っている取組みなどについて事例が出された。
- ・西遊佐地区では、中学生、高校生、大人を交えて未来について考える会を設けた。遊佐高校では県外出身の生徒を受け入れており、一期生は大学生になっている。その生徒が考える会に参加し、様々なアイデアを発表している。「そんなことはできない」を禁句にし、まずはやってみる。
 - ・同じ遊佐町の藤岡地区では、学校がなくなった地区を盛り上げようと巨大紙相撲大会を復活する予定。学校のクラブ活動と連携したり、懸賞を募集したりしながら盛大に開催予定。

3 助言 山形大学地域教育文化学部 教授 安藤 耕己 氏

- 遊佐町西遊佐地区まちづくりの会の活動について

- ・社会教育施設・機関ではないということから、逆に福祉やコミュニティビジネスも絡めやすい利点がある。
- ・学校統合に関わって、例えば複数の小学校が一つとなった西川小学校では、社会科や生活科、総合的な学習の時間などで、旧学区を含めた地域について学ぶ活動が位置付けられている。それは、「近未来の見通し」をもつことができる場になっている。一度地域を離れても、結婚や子育て、親の介護などで地域に戻ってくるというデータもある。10年後20年後、将来自分は暮らしているのか、どういった資源があるのか、どんな仕事があるのか、そういったことを理解することが大切である。

- 白鷹町荒砥地区コミュニティセンターの活動について

- ・目に見える取組みを行っている。そういった取組みは、年に一回訪れる、ふるさと納税、名産を買ってくれるなどの関係人口を増やす可能性がある。
- ・荒砥高校、白鷹中学校と連携した取組みは「近未来の見通し」をもつことに一役買っている。地域のことを知るといのは魅力だけでなく、「自分の地域だめだなあ。」という気づきもあるかもしれない。それでも、その地域を離れて改めて意味に気づき、価値を見出す可能性もある。

- 両事例の重なり

- ・少子高齢化の進行、学校統廃合の進展。地域に学校がなくなったことで、伝統芸能がなくなってしまう例もある。今回の2事例は元公民館を拠点として、住民組織による地域運営・経営が行われている。「人に事業がつく。」という言葉もあり、担う人材によって同じ地域性をもっているところでも取組みに差が出てくると感じている。
- ・PDCAに地域の人々みんなに関わってもらわないと、いずれ活動が停滞していく。様々な世代の人にいかに関わってもらうかが重要である。
- ・ある自治体で全く所管違いの公民館に確定申告の書き方を教わりに来る人が続く場面を見た。その後、町の関係部署に電話をして「いまから〇〇さんがそちらに行くので、よろしく」とつなぐ。そういった「ワンストップサービス」のような取組みは、人が集まる。その反面、職員の負担増につながる。

- まとめ

キーワードは「巻き込む」。鶴岡市のある学区の運動会では、地域が主催で学校がそこにのっかるかたちをとっている。そこで大事ななのは、大人が「本気」で楽しむ姿を見せることである。それを見た子どもたちが「自分たちもそうなるんだなあ」と思えるようになる。

「世のため、人のため」という「公共性」を前提に地域活動に関わってもらうのは難しい。「この活動に関わると何かいいことあるの？」という問いかけが先に立つと、壁が高い。そうではなく、「自分のため」「自分たちのため」という、いわば「私事性」から始まる公共性の方が地域の人に主体的に関わってもらえる。いつの間にか巻き込まれている、という感覚である。

ただ、このように人々を巻き込んでいくにはそれらの活動に伴走的に関わるスタッフや職員のセンスが大事になってくる。このことはある程度否定はできないが、ただそれではプレッシャーだけになる。この立場にあるみなさんは、ぜひこのような意見交流や研修の場で何か困ったときに連絡できる関係づくりを行っていただき、アイデアと苦勞と喜びとを共有させていってほしい。

【第2分科会】 於：サハトベに花 ホール

テーマ：学習機会・学習環境の充実

1 話題提供

- (1) かほく町民大学ひなカレッジの活動について
かほく町民大学ひなカレッジ実行委員長 小林真公子 氏
- (2) 文化に親しみ文化を愛する町づくり
～町の良いところを見つめなおす大人の学びづくり～
真室川町教育委員会教育課生涯学習係主査 庄司潤一郎 氏



2 質疑応答・協議

視点：地域住民にとって魅力的な学習プログラムの企画・運営や学習環境の充実をどう図るか。

(1) かほく町民大学ひなカレッジの活動について

- 素晴らしい講師陣である。また、実行委員がエネルギーに取り組んでいる。予算、活動の場の確保はどうしているのか。また、住民のニーズがどのように反映されているか。
 - ・活動の場は役場の会議室。予算は町からでており、お金の管理も町が行っている。ニーズについては、講座の後のアンケートを参考にしている。また、その年の注目の人、話題の人などを参考にしている。
- 地域みんなが、開きたい継続したいというモチベーションは、どこからくるのか。
 - ・楽しいが一番。知り合いの輪が広がることやみんなの笑顔、「良かった」という言葉から力をもらっている。
- ◆学校の立場から申し上げると、学校教育とのコラボレーションも考えられる。親子でフラワーアレンジメントなどの活動に子どもたちを巻き込むことで、次の世代にもつながっていくのではないか。

(2) 真室川町「文化に親しみ文化を愛する町づくり」について

- ツアーに特化している取組みがユニークである。発掘して提供するのは大変だと思うが、今後の展開は？
 - ・今年で6年目となった。最初の頃は次々と見学場所を回っていたが、もっと深く体験しても良いのではという考えも出ている。今後もツアーを継続していく。
- 資料作成は大変だと思うが、すばらしい資料を整理している。どのように作っているのか。
 - ・担当職員が、町を巡るセルフツアーを行い作成している。町の歴史などは、委員会にこれまで蓄積されてきた資料を参考にしている。参加者には、参考文献等も付けて詳しいものを配付している。

3 助言 東北芸術工科大学美術科総合美術コース 講師 石沢 恵理 氏

○かほく町民大学ひなカレッジの活動について

- ・町民による実行委員会と行政のサポート体制が14年の継続につながっている。事業を行いながら見直しを行っていることで、この活動をなぜ実施しているのか言語化し、意義を確認している。
- ・参画の仕方を選択できるようにすることで「受講者」から「主体的な参加者」へ参画の仕方を変えることも考えられる。また、参加者の感想、声が形となって展示されることで意欲にもつながると考えられる。
- ・参加層を広げる、重ねることで他世代間の交流を生み出す機会となっている。若い世代の人たちは、あえて現地に行く・体験するなどの対面の活動に対して求めることが、変わってきていることを意識していきたい。

○真室川スタディツアーについて

- ・情報発信やアーカイブとして残し活用することは大切。参加者を増やすには、どの世代にも口コミは有効である。インターネット上での保存も大切だが、紙媒体での保存も、記録という側面から重要である。
- ・常に情報発信していくことが大切。ターゲットは何か、どんなメッセージを伝え、どう思っているのか考えていくことが大切。個人情報保護をしっかりと行いながら、参加者一人一人が情報をシェアすることで、主体として考えていく機会になる。

○地域の「文化」を軸とした学習機会の重要性

- ・自ら町に何かやってみようという、シビックプライド「都市に対する市民の誇り」を構成していくことが大切。
- ・「参加」の考え方について、参画のはしご（ロジャー・ハート「子どもの参画」より）を参考にし、参画のレベルを考えることが大切。
- ・「文化芸術」の捉え方について、創造された〈モノ〉だけではなく、その過程や環境などの〈コト〉も芸術として捉えられると考えるようになってきている。活動のプロセスの中で生まれる出会いや発見、そして、そのこととの共存と共感によって、受講生が体験を通して変化していくことがある。

【第3分科会】 於：サハトベに花 交流室

テーマ：関係機関等との連携・協働



1 話題提供

(1) 西原地区親睦会による

『かかしで地域づくり事業』の取組みについて

尾花沢市西原地区親睦会 会長 溝越 正廣 氏
同 事務局長 渡辺 修 氏

(2) 西荒瀬コミュニティ振興会

～『日向川サケ物語』地域の教育力向上に向けた取組み～

酒田市西荒瀬コミュニティ振興会事務局長 阿彦 忍 氏

2 質疑応答・協議 視点：地域住民・各種団体・学校・関係機関等との連携・協働をどう進めていくか。

○事業を進める際の経費について教えてほしい。

・西原地区では、地域づくり公金等の制度があることを知り、社会教育関係の審査の結果、公金をもらった。さらに、地区の区長に声をかけ、集落会計からももらっている。その他、社会福祉協議会からももらっている。

・西荒瀬地区では、酒田市と、山形県（みどり豊かな森林環境づくり推進事業）から補助金をもらっている。

○かかしと子どもたちの関わりについて教えてほしい（尾花沢市へ）

・子どもたちにもかかしの作り方を教えている。子どもたちも、家で作っている。

○飲みニケーションが大事と考えるが、どう考えるか。（尾花沢市へ）

・コミュニケーションをとるのは、お酒の席から始まるので大事。事業のアイデアもたくさん浮かんでくる。イベントには女性の力が必要なので、酒席は男性だけでなく女性も男性と同様に出席している。

○サケ以外に学校の子どもたちとかかわる事業について教えてほしい（酒田市へ）

・花いっぱいフレンドリー（花植え）、わくわく夢の森（植林）、天体教室、ごはん大好き庄内米（地場の野菜を使った料理作り。食生活改善推進員からサポートしてもらう）、干し柿づくり。

◆学校の先生が退職した後は、地域の先生として地域づくりにかかわってもらいたい。

3 助言 一般社団法人 とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬 隆人 氏

○関係機関等との連携・協働のポイント

- ・日頃からあいさつを交わす。こまめに顔を出す。
- ・困ったときに助け合う。手伝いに行く。
- ・お世話になったら手土産を持参し、お礼に行く。
- ・知り合いが主催している事業に行き、何か購入する。
- ・振舞いをいただいたら、おいしかったと伝える。
- ・依頼への回答は、「イエス」か「はい」か「喜んで」。
- ・できないときは、後で埋め合わせをする。
- ・メールやLINEだけでなく、直接会いに行く。

○山形県の公民館

・公民館で飲酒を含む会合をしているのは山形県だけ。公民館に地域住民が集まり、お酒を飲みながら、交流や親睦を深めていると同時に、学びの振り返りをしたり、次の事業の話し合いをしたりする場となっている。

楽しんでだけでなく、地域づくり、つながりづくりとして意味があり、重要な社会教育の場である。

○社会教育と地域福祉

・社会教育なのか、地域福祉なのかどちらか分からないというのが理想の取組みである。社会教育と地域福祉に、境目は存在しない。地域福祉の営みの中に社会教育が埋め込まれている。

○子どもたちの郷土愛育成

・西荒瀬地区は、食生活改善推進員とつながっていることで、学びの質を高めている。地域の良質な大人が、子どもたちと関わることによって、郷土を愛する心の育成につながっている。

○人と人をつなぐ接着剤

・地域づくりは、つながりづくりである。知人や友人を増やす活動だ。そのためには接着剤が必要である。西原地区では「かかし」、西荒瀬地区では「サケ」が接着剤となっている。

・接着剤の要素の例として「楽しい」「うれしい」「心地よい」「食べる」「飲む」「健康」等が挙げられる。

○山形らしい実践

・両地区の実践は、山形の地域特性を生かしたものであり、今あるものを大切にしている。

【第4分科会】 於：サハトベに花 全天周劇場

テーマ：次世代の人材育成

1 話題提供

- (1) 高島町各地区における教育キャンプの取組み
高島地区子ども育成会連絡協議会 理事 金子 睦夫 氏
- (2) おおくら3塾による青少年育成活動の取組み
大蔵村教育委員会教育課 課長補佐 八鍬 弘 氏



2 質疑応答

- キャンプをする上で、想定される危険への対応は？（高島町へ）
 - ・今は、住宅地・川原・緑地公園などで開催し、山の上での活動は行っていない。
- 子どもと同様に大人の関わりも強い。大人間の事前打合せや学校の関わり、参加者の構成は？（高島町へ）
 - ・時代に合わせて、内容や指導法を変えている。開催の1週間前に事前研修会を行い、現地で事前学習会を行っている。
 - ・学校に訪問して、教育キャンプの説明会を開催している。説明する時間が以前は1時間であったが、今は、休み時間の15分間で説明を行っている。
 - ・各自治会からの育成会の役員で構成されている。以前より女性の比率が高くなっている。
 - ・各自治会長が欠席の場合、必ず代理を立てること。育成会のOBの協力が強い。

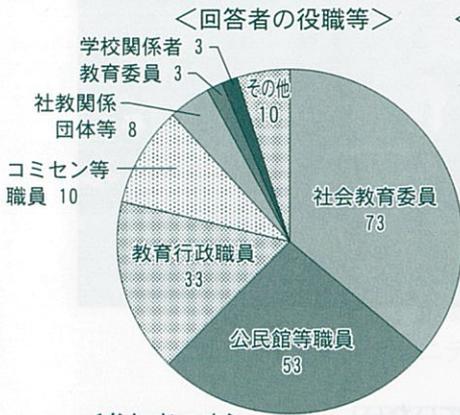
3 協議 **視点：社会の変化に対応する地域の人材を育成するために、社会教育事業をどう仕組むか。**

- 高島町のキャンプへの参加者の周知等、今後の課題に対する考えや対策
 - ・R6の参加者は減ったが、「来て良かった」とワクワクしてもらえるよう考えた。参加者が少ない分、一人一人に密に関わり、これまで以上に楽しめたキャンプになった。今後も、思いを保護者へ伝えながら、活動を積み上げていく。
- 大蔵村で実施している塾について、希望制にしている意図
 - ・教育課と青少年育成委員で主催しており、学校は携わっていない。参加人数も減少してきている中、希望制で行っている。塾は、「おもいをつなぐ」ことを大切にしている。子どもだけでなく、保護者にも「良い経験ができる」おおくら3塾の魅力を周知し、参画を促していきたい。
- 指導者の課題への対策について
 - ・人材育成とは、子どもたちに、「実体験を通して、こういうことをやってみたい。」と思ってもらえるよう大人が姿勢を見せていくことが大事。「活動がどうつながっていくか、どう子どもを育てたいか。」という考えも持って子どもたちに関わっていく必要がある。
 - ・少子化はどこでも問題視されている。市町を飛び越え、広域的な活動ができないか。せっかく魅力的な活動を行っているのだから、行政からの情報発信等、横のつながりも必要ではないか。
- 学生への呼びかけ、参加を行っている事例がないか。
 - ・鶴岡市旧朝日村地域のボランティアサークルでは、域内の小学校でボランティア活動を行っている。卒業後も活動してもらえるよう巻き込んでいきたい。

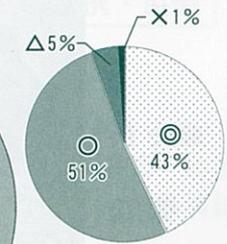
4 助言 東北大学大学院教育学研究科 准教授 松本 大 氏

- 人口減少、コロナ禍、SNSの普及、地域を越えた活動により、次世代の人材育成にどう向き合っていくかを考えなくてはならない。
- よい事業とは、「つどう、まなぶ、むすぶ」を通して、住民も自ら「学びの主人公」になること。
そのためのヒント
 - ・「気軽さ、楽しさ」から「小さな成功体験」を積み上げ、達成感を感じてもらうこと。
 - ・楽しさは、工夫で「つくる」。身近な「足元（地域）」を題材とする。柔軟な発想（予想外の組み合わせ）も大切にする。
 - ・流行にのる、流行を活用する。（ソロキャンプ、大人の焚火等）
- 人によって、食いつくポイントは違う。団体によって協力したいポイントは異なるという視点を持つ。「子どもが主体」である。子ども目線で意見を聞く。

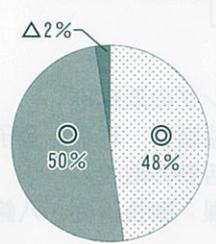
□一般参加者アンケート結果より



※回答数 206 人



＜分科会の満足度＞



◎=とても参考になった
○=参考になった
△=あまり参考にならなかった
×=参考にならなかった

＜参加人数＞

地区等	市町村名	大会関係者	一般参加者	参加総数	計
村山地区市町	山形市	4	15	19	214
	上山市	3	23	26	
	天童市	4	13	17	
	山辺町	4	7	11	
	中山町	3	3	6	
	寒河江市	5	4	9	
	河北町	9	17	26	
	西川町	5	4	9	
	朝日町	5	6	11	
	大江町	5	9	14	
	村山市	4	10	14	
	東根市	5	18	23	
尾花沢市	9	11	20		
大石田町	5	4	9	46	
最上地区市町村	新庄市		3		3
	金山町		5		5
	最上町	3	11		14
	舟形町		4		4
	真室川町	1	3		4
	大蔵村	1	4		5
	鮭川村		6	6	
戸沢村		5	5	70	
置賜地区市町	米沢市	2	3		5
	南陽市		4		4
	高畠町	2	6		8
	川西町		4		4
	長井市	2	17		19
	小国町		3		3
	白鷹町	2	12		14
	飯豊町	1	12	13	60
庄内地区市町	鶴岡市	2	17	19	
	庄内町		15	15	
	三川町		3	3	
	酒田市	1	3	4	
	遊佐町	2	17	19	65
県関係等	県社会教育関係	5	7	12	
	県学校関係等		3	3	
	出演者等	29		29	
	県教育局	21		21	
計		144	311	455人	

＜参加者の声＞

【大会全般】

- ・大変充実した研究大会の内容であった。特に講演会や分科会では県内の取組みを学ぶよい機会となった。
- ・各地域の活動状況を知ることは重要であり、良いテーマであった。社会教育研究大会として、継続的にこうしたテーマでやってほしい。
- ・ミッチーチェン氏の講演は、期待した以上に準備・勉強されていて興味深く聞かせていただいた。
- ・お弁当は、心がこもっていておいしかった。

【各分科会】

- ・地域活動の担い手不足は大きな課題である。様々なアイデアで解決に近づいていくことの重要性を再認識した。(第1分科会)
- ・公民館で世代交流の事業を展開する際に、年代別の課題がそれぞれであるため、全体として課題を解決する術が見つからない。子どもだけ、高齢者だけという事業が中心となっているのが現状である。(第2分科会)
- ・小さな集落の取組みや世代間交流についての事例発表はこの地域でも共通した課題であり、今後も紹介いただきたい。(第3分科会)
- ・青少年育成活動における少子化問題と、就労状況による保護者の意識変化等の課題について、もっと突っ込んだ提言ができればよかった。今後、現実的な課題として、地元でもよく検討していきたい。(第4分科会)

【要望等】

- ・負担を考えると、半日開催のほうがありがたい。
- ・10月は秋の事業で忙しいため、11月に実施してほしい。
- ・さらに多くの方々に参加を呼びかけてほしい。
- ・若い方も社会教育委員に選任するなどして参加者の幅を広げれば大会自体が世代間交流につながるものになる。

～ 編集後記 ～

5年ぶりに1日での開催となった今年度の山形県社会教育研究大会は、河北町教育委員会の全面的な協力により、「サハトベに花」をメイン会場に開催することができました。

400名を超える社会教育関係者が集い、開会行事に引き続き、河北町の谷地大黒舞の発表、その後の記念講演では県内で活躍中のミッチーチェン氏が登場し、ご自身の経験をもとにした貴重なお話をお聞きすることができました。また、昼食には地元のかほくイタリア野菜を使った中華弁当を提供させていただきました。

午後は、県内各地の実践を基にした分科会が行われ、活発な議論が行われました。どの実践も様々な工夫がなされた取組みで、参加者にとって明日からの活動につながる有意義な時間となりました。

社会教育の推進のために、関係者が参集しての研修機会は重要であり、様々な実践から学ぶことができる本大会は貴重と言えます。来年度は川西町での開催となりますので、県内各地の多くの方々からご参加いただき、各地域における社会教育のより一層の振興・発展を目指していきたいものです。

事務局長 原田 正明 (村山教育事務所 社会教育課長)

第15回 山形県社会教育
研究大会 記録誌

発行：大会実行委員会
実行委員長 大沼恵美子

事務局：山形県教育局
村山教育事務所 社会教育課
寒河江市大字西根字石川西355
☎0237-86-8274